

ヨエル書 3 : 1~5
使徒言行録 2 : 1~13
「聖霊に満たされて」

【招詞】 ヨハネによる福音書 4 : 23~24

【讃美歌】 24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】 詩編 51 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 346 「来たれ聖霊よ」

【祈祷】

【聖書】 ヨエル書 3 : 1~5、使徒言行録 2 : 1~13

【説教】 「聖霊に満たされて」

<聖霊>

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」

これが、ペンテコステの出来事です。

「ペンテコステ」というのはユダヤ人の大事な祭りの一つである「五旬祭」のギリシア語です。この「五旬祭」の日に、聖霊が弟子たちに降りました。そして、聖霊に満たされた弟子たちが、ほかの国々の言葉で話し出した。そんな出来事が起こりました。

ですから教会では、この出来事から、ペンテコステの日のことを、「聖霊降臨日」とも呼んでいます。今日は、この「聖霊降臨」の出来事を覚えて、わたしたちは礼拝をささげたいと思います。

…さて、聖霊なる神さまは、父、子、聖霊なる、三位一体の神さまの、お一人です。

わたしたちは、父なる神さまのことは、何となく想像できる。子なるイエスさまのことも、十字架や復活のお姿を思い描くことができる。

しかし、どうも聖霊なる神さまだけは、よく分からない。つかみどころがない。そんな風を感じているのではないのでしょうか。

でも、聖霊なる神さまは、わたしたちが、神さまの御言葉を聞き、イエスさまの救いを信じ、その恵みに与り、イエスさまと一つに結ばれるために、わたしたちに与えられているお方です。

この聖霊なる神さまのお働きなくして、わたしたちは救いに与ることは出来ないのです。

<ペンテコステで起こったこと>

使徒言行録で語られているペンテコステの日。この日は「五旬祭」の日であり、一同が一つになって集まっていた、とあります。

一同とは、イエスさまの弟子たちのことです。彼らが、一つになって集まっていた、というのは、共に祈っていた、ということでしょう。

そして、彼らがこのように、一つになって集まって祈るに至るまでは、神の御子イエスさまの、十字架の死と、復活、そして、昇天の出来事がありました。

弟子たちは、イエスさまに招かれ、従い、イエスさまと共に歩んできました。この方を神の子、救い主と信じてきました。

しかし、イエスさまが捕らえられ、十字架に架けられたとき、彼らは皆、裏切ったり、見捨てたり、逃げたりして、イエスさまから離れてしまったのです。

ところが、十字架の死から三日目のこと、イエスさまは死者の中からよみがえられ、弟子たちの前に、復活の体をもって、その姿を現されました。

そして40日間、弟子たちと一緒に過ごされたのです。イエスさまは、御自分が、確かにあの十字架で死んだこと。そして、体をもって、まことの復活し、生きておられることを、弟子たちに、確かなこととして、証しされました。

そして40日が経つと、イエスさまは、復活の体を持って、天に上げられたのです。

その時をもって、弟子たちはもうそのイエスさまの復活のお姿を、目で見ることは出来なくなってしまいました。

しかし、天に上げられる時、イエスさまは、弟子たちに約束を与えてくださっていたのです。それは、同じ使徒言行録の1:8に語られていますが、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」という約束でした。

またこのことは、今日読まれた旧約聖書のヨエル書に「その後／わたしはすべての人にわが霊を注ぐ」とあったように、父なる神さまが、ずっと昔から約束しておられたことでもありました。

ですから、天に上げられた後、弟子たちは一つとなって、約束の聖霊が遣わされる日、彼らの上に聖霊が降る日を、祈りつつ待っていたのです。

そして、それは「突然」来ました。激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまったのです。

風も、炎も、旧約聖書の時代から、神さまの臨在を現わす時に用いられる表現です。聖霊なる神さまが、確かに、ここにおられることの「しるし」です。

こうして「五旬祭」のペンテコステの日、聖霊が、祈る彼らの上に降り、一同は「聖霊に満たされた」のです。

<世界に宣べ伝えられる神の言葉>

さて、ここで、不思議な出来事が起こります。4 節にはこうありました。「一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。」

弟子たちがいた場所はエルサレムでしたが、そこには「五旬祭」に参加するために、天下のあらゆる国から、人々が集まってきていました。

それなのに、そこで、だれもかれもが、自分の故郷の言葉で、弟子たちが話しているのを聞いて、あっけにとられた。驚いた、というのです。

これが、ペンテコステに起こった、聖霊の一つの大きなお働きです。それは、聖霊に満たされると、外国語が急に話せるようになる、ということではありません。

この箇所で大切なのは、弟子たちが、あらゆる国の言葉で、何を話したか、ということです。それは、7 節以下にこう書かれています。

「人々は驚き怪しんで言った。『話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。』」

ここに、たくさんの地名が出てきました。これは、当時の人々が行き来できる範囲の、ほぼ世界のすべての国々と言って良いでしょう。つまり、地の果てにまで至る、全世界の国々です。

これらの、世界中の国々から来た人々が皆、「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは」と言ったのです。

人々は、それぞれの自分の故郷の言葉で、同じ一つのことを聞きました。聖霊を受けた弟子たちが、色々な国の言葉で語ったことの内容は、同じ、一つのことだったのです。

それは、「神さまの偉大な業」についてです。つまり、イエスさまの救いについてです。

イエスさまが、神に遣わされた神の御子、救い主であること。イエスさまの十字架の死と、復活の御業が、わたしたちの罪を贖い、永遠の命を与えるために成し遂げられたことであったこと。そして、このイエスさまを救い主と信じる、すべての者が、救いに与ることができるということ。

この、神さまの偉大な、救いの御業のことを、聖霊を受けた弟子たちが、あらゆる国の言葉で語り。それを、あらゆる国々の、世界中の人々が、自分の分かる言葉で、聞いたのです。

使徒言行録の 1:8 でイエスさまはこう言っておられました。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

まさに、このイエスさまの約束の言葉が、聖霊が降ることによって、弟子たちの上に、実現したのです。

そしてこのことは、聖霊によって、イエスさまの救いの御業が、世界中の、どんな国の、どんな言葉の、どこにいる人にも、届けられる、ということを意味しています。

聖霊なる神さまは、聖霊を受けた人に、イエスさまの救いの出来事を語り、証しする力をお与えになります。

イエスさまの救いを人々に大胆に語る弟子たちの姿は、あの、十字架の前で、臆病に逃げ出した姿からは、想像もできないようなことです。

しかし、救いの御業をすべて成し遂げ、天に上げられた復活のイエスさまは、聖霊を遣わしてくださることによって、聖霊を通して、いつでも、どこでも、弟子たちと共にいてくださいます。ですから、彼らは勇気を出して、喜びに溢れて、イエスさまのことを、世界中の人々に、地の果てまで、宣べ伝えていくことが出来るようになったのです。

聖霊は、天におられるイエスさまと、イエスさまを信じて地上を歩む者を、一つに結び合わせて下さいます。そして、その人の心を燃え立たせて、神さまの救いの御業に仕えていく、新しい力を与えてくださるのです。

そのようにして、弟子たちが例によって語らせられる、イエスさまの救いの御業を、あらゆる国々の、だれもかれもが、聞くことが出来るようにされたのです。

<信仰を与える霊>

ところが、今日の使徒言行録 2:13 には、このようなことも書かれていました。

「しかし、『あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ』と言って、あざける者もいた。」

中には、聖霊に満たされた弟子たちの語る、偉大な神の御業を、あざける者がいた。御言葉を聞いているにも関わらず、それを受け入れないで、信じないで、馬鹿にする者がいた、というのです。

聖書はとても正直に、疑い深い、素直ではない、心の頑なな、わたしたちの罪の姿を伝えています。神さまの御業を信じられない。イエスさまの十字架の死と、復活の出来事を受け入れない。そういう人々もまた、いたのです。

わたしたちもまた、はじめは、そうだったのかも知れません。

でも、それは当然とも言えます。神さまの御業は、わたしたちの理解も、思いも、常識も、はるかに超えているからです。

だれが、神の御子が、罪人の人間のために、神の身分を捨てて、この世に来られて、十字架で悲惨な死を遂げた、などと信じる事が出来るでしょうか。

だれが、死んで葬られた者が、三日目によみがえったと信じることができるでしょうか。

だれが、お一人のイエスという方の死によって、このわたしの罪が赦され、神さまに受け入れられ、神の子と呼ばれ、永遠の命をいただき、自分もまたやがて復活の恵みに与ることができるなんて、信じることが出来るでしょうか。

でも、父なる神さまは、このことを御心としてくださったのです。御子イエスさまは、このことを実現してくださったのです。

そして、聖霊なる神さまは、わたしたちに降ってくださり、宿ってくださり、心を開かせて、信仰を与えて、この神さまの救いの出来事を信じ、告白し、感謝して受け入れる者とならせてくださるのです。

…わたしたちは、父なる神さまの愛によって、イエスさまの救いの御業によって、全面的に、一方的に、救いの恵みを与えられているのに。それを受け取ることさえも、聖霊なる神さまの助けが必要なのです。

しかし、神さまは、喜んで聖霊をわたしたちに遣わしてくださり、聖霊でわたしたちを満たしてくださり、天におられるイエスさまへと導いて、このお方と一体とならせてくださるのです。

ですから、聖霊は常に、わたしたちをイエスさまへと導いてくださいます。常に、神さまの愛へと、促してくださいます。

そういう意味では、三位一体の神さまの中でも、聖霊なる神さまは、わたしたちに宿って、わたしたちの内に満ちていてくださる、最も身近なお方だと言えるかも知れません。

今、御言葉を聞いているこの時も、まさに聖霊なる神さまは、ここで、わたしたちに働いておられます。

この、使徒言行録の「ペンテコステ」の出来事から 2000 年もあとの、エルサレムから遠く離れた、日本の宮崎の地で。今わたしたちが、神の偉大な業について聞き、イエスさまの十字架と復活の出来事を知り、その救いの恵みを信じ、一つになって集まって、神さまを礼拝している。ここに、天におられるイエスさまを信じ、この方に結ばれた、救われた者の群れである教会がある。

これは聖霊によって、わたしたちが、イエスさまの救いの恵みに確かに与り、生かされているという、事実なのです。

ここでわたしたちが、御言葉に生かされ、礼拝をささげているのは。神さまの愛が真実であり、イエスさまの救いが確かであり、聖霊なる神さまが、わたしたちに注がれていることの、確かな証拠に他ならないのです。

<聖霊に満たされる>

さて最後に、2:4 には、「一同は聖霊に満たされ」とありました。聖霊に満たされる。この言葉を、心に留めたいと思います。

外から注がれるものに満たされるためには、それを受ける器は、空っぽでなければなりません。弟子たちは、約束の聖霊を、祈って待っていました。

神さまに心を向けて、自分を空にして、神さまから与えられるもので満たされるために、備えていたのです。そして彼らは、天から降った聖霊に満たされて、その口から、神の言葉が溢れ出したのでした。

ですから、同じようにわたしたちも、聖霊に満たされることを求めて、いつも備えて、一つとなって、共に祈る者でありたいのです。

わたしたちは、自分の器の中を、自分の拠り所になりそうなものや、救いになりそうなものや、安心できそうなもの、強そうなもので、何とか満たそうとしています。

でもそれは、神さまの恵みを受け入れる邪魔をしている、虚しいものであり、外に出さなければなりません。

最も良いものは、神さまから与えられます。救いの恵みは、神さまから注がれます。本当の拠り所は、神さまにのみあります。

自分から出たもの、自分で手に入れたもの、自分の中にあるものは、最終的には、自分自身を救うことも、助けることも、支えることも出来ません。

生きていく上で起こる様々な出来事や、試練を通して、それらは剥ぎ取られ、失われていくことを、わたしたちは知らされていくのです。

やがて、わたしたちは、本当は自分が、自分を満たすことができる良いものを、何も持っていないことに気付きます。

そして、わたしたちが、神さまの御前に立って、本当に空っぽの、貧しい自分を差し出す時。もう、そうすることしか出来ない時。

そのわたしの器に、神さまは、聖霊を満たしてくださる。最も良いものを注いでくださる。命の御言葉を。イエスさまによる罪の赦しを。神さまと共に生きる永遠の命を。まことの幸いを。まことの慰めを。わたしたちの内に豊かに注ぎ、満たして下さるのです。

そして、注がれたこの恵みは、満たされた愛は、永遠に尽きることがありません。

自分を空っぽにすることは。自分が、空っぽの貧しい器であると知ることは。受け入れ難いことであり、辛く、苦しい思いをすることに違いありません。自分の無力さや、弱さや、貧しさを、認めることは、恐ろしいことであり、惨めなことだからです。

しかし、そのような貧しいところにこそ、空っぽのところこそ、神さまはイエスさまの救いの恵みを、聖霊の御力を、溢れるほどに注いで下さり、惜しみなく、わたしたちを満たして下さるのです。

その時、満たされたわたしたちの口からは、イエスさまの救いを証しする言葉が、神さまを賛美する歌が、聖霊に燃え立たされた喜びの叫びが、溢れ出してくることでしょう。

そして、わたしたちは、神さまの愛に満たされた中でこそ、その愛に促されて、神さまを愛することができる。

また、神さまの愛に満たされてこそ、わたしたちは、そこから愛をくみ取って、隣人を自分のように愛する思いを、抱いていくことができるのです。

聖霊は、今も変わらず、わたしたちの一人一人の上に、そしてこの教会の群れの上に、働き続けてくださっています。これからも変わらず、イエスさまが再び来られるまで、聖霊に導かれて、わたしたち、教会の歩みは続いていきます。

今日も、これからも、わたしたちは一つになって神さまに祈り求め、一人一人が自分の器を神さまに差し出し、共に、聖霊によって満たされていきたいのです。

そして、この神さまの偉大な御業を語る、イエスさまの証人とされていきたいのです。

争いや、分断の絶えない、悲しみや苦しみの絶えない、わたしたちの日々です。

しかし、いつか、世のすべての人々が、同じ一つの言葉を聞き、同じお一人のイエスさまに救われ、同じ一つの聖霊に満たされたなら。わたしたちは、共に神さまの豊かな愛の中に、赦しの中に、恵みの中に、命の中であって。互いに愛し合い、赦し合い、一つとなって、共に生きていくことができるのではないのでしょうか。

【お祈り】

天の父なる神さま

御子イエスさまが、わたしたちの救いのために、十字架に架かり、また死からよみがえってくださったこと。そして、天に上げられて、聖霊をお遣わしく下さいましたことを、心から感謝いたします。

今この時も、聖霊なる神さまのお働きの内であってこそ、わたしたちは、あなたの御言葉を聞き、愛の御心を知ることができます。また、聖霊なる神さまのお働きの内であってこそ、わたしたちは、天におられ、今も生きておられる復活のイエスさまと一体とされ、イエスさまのすべての恵みに与り、生かされていることを覚えます。

どうか、これからもわたしたちが、聖霊にいつも豊かに満たされて、救いの恵みをしっかりと受け取って、感謝と喜びをもって礼拝をささげていくことが出来ますように。

聖霊によって、わたしたちの心が、思いが、言葉が、行いが、天におられるイエスさまと、いつも共にありますように。

今日は、聖餐の恵みにもあずかります。聖霊なる神さまが、この目には見えない、天におられるイエスさまの御体に、わたしたちが結ばれ、生かされ、養われている恵みを、目に見える「しるし」のパンと杯を通して、わたしたちに受け取らせて下さいます。

どうか、いよいよ、わたしたちがイエスさまと一つにされている恵みを味わい知り、その恵みに溢れて、イエスさまを証する者とされますように、お導きください。

そして、どうか一人でも多くの方が、聖霊によって、御言葉を聞き、信仰を与えられ、生きておられるイエスさまを主と仰いで一つに結ばれ、共にこの食卓に着くことが出来ますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 3 4 1 「来たれ聖霊、わが主」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】 7 2 「まごころもて」

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 2 9 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン